

救命救急センターの指定について

(神戸大学医学部附属病院)

神戸大学医学部附属病院を救命救急センターに指定することについて

神戸大学医学部附属病院を救命救急センターに指定して3次救急に対応する。

1. 目的

現在、神戸圏域では三次医療を提供する救命救急センターとして神戸医療センター中央市民病院および兵庫県災害医療センターがあり、外傷や一般救急疾患を担っているが、神戸圏域と隣接する圏域から神戸圏域への患者の流入が流出を上回っている。特に高度急性期においては、隣接する、阪神北、東播磨、北播磨において、必要病床数が不足することが予想されている。したがって、神戸圏域における救急医療の需要は大きく膨らむと考えられ、自圏域の住民のみならず、他圏域から流入する患者を受入れ、質の高い医療を提供する必要がある。また、次世代の救急・総合診療を担う医療者の育成も急務である。

幸い、神戸大学医学部附属病院は研究機関を備えたすべての診療科を擁する大学病院の特性として、一般救急疾患のみならず様々な特殊疾患に対する高度先進医療を提供できる環境にある。また、救命救急センターの指定に当たり、救命救急科・総合内科を入り口とした病院全体の救急患者受け入れシステムを構築し、さらに数名の救急医を確保できる見込みで、広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒に限らず、あらゆる特殊疾患患者を受け入れられる段階にある。さらに、近い将来発生が予想される南海トラフ地震等の大規模災害に備え、神戸圏域の災害拠点病院の中で津波被害を免れうるエリアに立地している神戸大学医学部附属病院の大規模災害に備えた救急医療体制の整備が急務である。さらに教育機関であることから次世代の救急・総合診療を担う医療者の育成も行っている。

以上を鑑みて、大学病院の特性を活かした様々な特殊疾患患者の受け入れや、災害拠点病院として大規模災害に備えた救急医療体制の整備、次世代を担う人材の育成を目的として、救急部を改組し救命救急センターへの早期の整備・強化を図る。

2 時期

2019年7月

3. 場所

神戸大学医学部附属病院

1階 救急診察室

3階 ICU2床、HCU12床

5階 救命救急センター病床 11床

10階 救命救急センター病床 11床

4. 診療体制等

区分	内容
専用病床数	36床(ICU2床、HCU12床、救命救急センター病床 22床)
専用設備	診察室1室(二次初療4床)、手術室1室(三次初療1床)、緊急検査室1室、放射線撮影室1室(三次初療1床)
専任従事者	医師 17名、看護師 98名

5. 施設の特徴

- ア すべての診療科において様々な特殊疾患に対する高度先進医療を提供できる環境を備えた大学病院の特徴を活かした高度医療・専門医療の提供
- イ ロボット手術装置、PET/CT・MRI、ハイブリッド手術室、リニアックなどの導入
- ウ 手術室17室、外来化学療法室28床などの施設の充実
- エ DMATカー兼用ドクターカーの導入と屋上ヘリポートの設置
- オ 津波を免れる高い海拔に立地する災害拠点病院として地震発災時の高度の災害医療、救急医療の提供
- カ 教育機関である大学病院の特性を活かした次世代の救急・総合診療を担う医師、医療者の育成

6. 業務見込(年間)

- ア 入院患者延数 7,800人
- イ 外来患者数 8,900人
- ウ 入院患者実数(救命救急センター入院) 390人
- エ 救急自動車搬送人数 3,000人(初期、二次医療機関からの搬送受入 750人)
- オ 平均在院日数 20日
- カ 病床利用率 115%

7. 職員体制

- ア 医師・医療技術等 1,117名
- イ 看護師 915名
- ウ 事務・その他 320名

救命救急センターの指定要件の具備状況について

救命救急センター指定要件（救急医療対策事業実施要綱）		病院の状況	
救命救急センターとして、下記の運営が可能なものであること。			
(1)救命救急センターは、原則として、重症及び複数の診療科領域にわたるすべての重篤な救急患者を24時間体制で受け入れるものとする。	必須	可能	
(2)救命救急センターは、初期救急医療施設及び第二次救急医療施設の後方病院であり、原則として、これらの医療施設及び救急搬送機関からの救急患者を24時間体制で必ず受け入れるものとする。	必須	可能	
(3)救命救急センターは、適切な救急医療を受け、生命の危険が回避された状態にあると判断された患者については、積極的に併設病院の病床または転送元の医療施設等に転床させ、常に必要な病床を確保するものとする。	必須	可能	
(4)救命救急センターは、医学生、臨床研修医、医師、看護学生、看護師及び救急救命士等に対する救急医療の臨床教育を行うものとする。	必須	実施	
救命救急センターとして、下記の整備基準を満たすこと。			
(1)救命救急センターは、救命救急センターの責任者が直接管理する相当数の専用病床（概ね20床以上（ただし、病床数が10床以上20床未満であって、平成19年度以前に整備されたもの、又は平成19年度中に国と調整を行っており平成20年度において整備されるものについては、この限りではない。））の専用病床を有し、24時間体制で、重症及び複数の診療科領域にわたるすべての重篤な救急患者に対する高度な診療機能を有するものとする。	必須	有（36床）	
(2)最寄りの救命救急センターへのアクセスに時間要する地域（概ね60分以上）においては、地域救命救急センター（専用病床が10床以上20床未満の救命救急センター）を整備することができる。			
(3)救命救急センター（地域救命救急センターを含む）には、24時間診療体制を確保するために、必要な職員を配置するものとする。	ア 医師		
	(7)救命救急センターの責任者は、重症及び複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者に適切に対応できる三次救急医療の専門的知識と技能を有し、高度な救急医療及び救急医学教育に精通した医師であるとの客観的評価を受けている専任の医師とする。（例：日本救急医学会指導医等）	必須	有（救急医学会指導医2名）
	(8)救命救急センターは、救急医療の教育に関する適切な指導医のもとに、一定期間（3年程度）以上の臨床経験を有し、専門的な三次救急医療に精通しているとの客観的評価を受けている専任の医師を適當数有するものとする。（例：日本救急医学会認定医等）	必須	有（6名）
	(9)救命救急センターとしての機能を確保するため、内科、外科、循環器科、脳神経外科、心臓血管外科、整形外科、小児科、眼科、耳鼻科、麻酔科及び精神科等の医師を必要に応じ適時確保できる体制を有するものとする。	任意	有
	(10)必要に応じ、心臓病の内科系専門医とともに外科系専門医を、脳卒中の外科系専門医とともに内科系専門医を専任で確保するものとする。	任意	有
	(11)小児救急専門病床（小児専門集中治療室）を設置する救命救急センターは、救命救急センター内又は本院（本院の場合は、常に必要な支援を受けられる体制を構築すること。）に小児の救急患者への集中治療に対応する小児科医師を確保するものとする。	必須	無 (小児救急専門病床を設置しない)
	(12)必要に応じ、重症外傷に対応する専門医師を専任で確保するものとする。	任意	有
	(13)救急救命士への必要な指示体制を常時有するものとする。	必須	有
	イ 看護師及び他の医療従事者		
	(7)重篤な救急患者の看護に必要な専任の看護師を適當数有するものとする。 また、小児救急専門病床（小児専門集中治療室）を設置する救命救急センターは、小児の救急患者への集中治療に対応する看護師を専任で確保するものとする。（なお、専任の看護師は、専門的な三次救急医療に精通しているとの客観的評価を受けていることが望ましい。例：日本看護協会救急看護認定看護師等）	必須	有
	(8)診療放射線技師及び臨床検査技師等を常時確保するものとする。	必須	有（昼間4名以上：夜間4名）
	(9)緊急手術ができるよう、必要な人員の勤員体制を確立しておくものとする。	必須	有（昼間16名以上：夜間16名）
(4) 施設及び設備	ア 施設		
	(7)救命救急センターの責任者が直接管理する専用病床及び専用の集中治療室（ICU）を適當数有するものとする。 また、急性期の重篤な心臓病、脳卒中の救急患者、小児重症患者及び重症外傷患者を受け入れるため、必要に応じて心臓病専用病室（CCU）、脳卒中専用病室（SCU）、小児救急専門病床（小児専門集中治療室）及び重症外傷専用病室を設けるものとする。	必須	有（ICU2床） ※専用病床ではないが、院内にオープンICUを18床を有している。
	(8)救命救急センターとして必要な専用の診察室（救急蘇生室）、緊急検査室、放射線撮影室及び手術室等を設けるものとする。	必須	有 (二次初療4床、三次初療2床：緊急検査室1室：放射線撮影室1室：手術室1室)
	(9)必要に応じ、適切な場所にヘリポートを整備するものとする。	任意	有（屋上ヘリポート）
	(10)診療に必要な施設は耐震構造であること。（併設病院を含む。）	必須	有（免震構造）
	イ 設備		
	(7)救命救急センターとして必要な医療機器及び重症熱傷患者用備品等を備えるものとする。 また、必要に応じ、急性期の重篤な心臓病、脳卒中の救急患者、小児重症患者及び重症外傷患者の治療等に必要な専用医療機器を備えるものとする。	必須	有
	(8)必要に応じ、ドクターカーを有するものとする。	任意	有（1台）
	(9)救急救命士への必要な指示ができるよう、必要に応じ心電図受信装置を備えるものとする。	任意	無

別紙2

救命救急センターの運営に関する施設等調査票

1 施設名	神戸大学医学部附属病院					
2 開設者	武田 廣					
3 施設所在地	神戸市中央区楠町7丁目5番2号					
4 運営開始（予定）年月日	7/1/2019					
5 運営病床数	病院全体（救命救急センター含）		再掲（病院全体）			
	934床		ICU	20床	SCU	0床
			CCU	0床	小児救急専門病床	0床
			重症外傷患者専用病床	0床		
救命救急センター	再掲（救命救急センター）					
	36床		ICU	2床	SCU	0床
			CCU	0床	小児救急専門病床	0床
		重症外傷患者専用病床	0床			
6 救命救急センター専用の施設 (センター優先は上段()に別掲)	診察室 (救急蘇生)	手術室		緊急検査室	放射線撮影室	\
	(0)	緊急	一般	(0)	(0)	
	1室	1室	0室	1室	1室	
7 耐震整備状況（未耐震割合%）を記載）	救命救急センター		0%	併設病院（併設病院がある場合）	-	
8 救急告示指定の有無	有					
9 臨床研修指定病院の有無	有					
10 29年度研修受入実績	年間研修サイクル	年間実人數	年間延べ日数	研修名等		
卒業前	医学生	1回/年	111人	1,080日	5年次 BSL実習	
	看護学生	-	-人	-日		
	救急救命士	1回/年	4人	40日	救命救急士養成課程に伴う病院実習	
卒業後	医師	-	-人	-日		
	臨床研修医	-	-人	-日		
	看護師	-	-人	-日		
	救急救命士	12回/年	12人	44日	救命救急士就業前研修/救命救急士気管挿管実習	
11 ドクターカー運用の有無	有					
12 使用可能なヘリポートの有無	有		有の場合→	緊急時屋上ヘリポート（臨時離着陸場）		
13 診療体制等						
① 責任者	専任の医師確保の有無			有		
	日本救急医学会専門医認定の有無			有		
	日本救急医学会専門医で無い場合の資格等			-		
	② 専任医師	専任の医師確保の有無			有	
		医師数（人）※			17人	
		※のうち、日本救急医学会に認定されている医師の人数（人）			6人	
	③ 内科、外科、循環器科、心臓血管外科、整形外科、小児科、眼科、耳鼻科、麻酔科、精神科等の医師を必要に応じ適時確保できる体制の内容	心臓病の内科系専門医	有	心臓病の外科系専門医	無	
		脳卒中の内科系専門医	無	脳卒中の外科系専門医	無	
	整形外科医は1名、循環器内科医は4名、救命センターに配置されている。その他内科、外科、心臓血管外科小児科、眼科、耳鼻科、麻酔科、精神科の担当医師は24時間体制で院内に配置されており、速やかに対応可能である。					
	④ 小児科医の確保状況 (小児救急専門病床設置時必	有		小児科医の配置場所		本院
平日の配置人数（人）			休日の配置人数（人）			
日勤時間帯		26人		日勤時間帯	17人	
準夜時間帯		14人		準夜時間帯	14人	
深夜時間帯		14人		深夜時間帯	14人	
専任看護師数（人）					98人	
うち、日本看護協会救急認定看護師の人数			2人			
⑤ 専任看護師	診療放射線技師の常時確保（併設病院可、オンコールは対象外）				有	
	臨床検査技師の常時確保（併設病院可、オンコールは対象外）				有	
⑥ その他職員						

救命救急センター指定要件 整備基準(4)施設及び整備に係る確認票

救命救急センター指定要件(救急医療対策事業実施要綱)より抜粋

救命救急センターとして、下記の整備基準を満たすこと。

(4) 施設及び設備

イ 設備

- (ア) 救命救急センターとして必要な医療機器及び重症熱傷患者用備品等を備えるものとする。
また、必要に応じ、急性期の重篤な心臓病、脳卒中の救急患者、小児重症患者及び重症外傷患者の治療等に必要な専用医療機器を備えるものとする。

整備基準

・救命救急センターとして必要な医療機器

保有している医療機器	内容(商品名、メーカー、型番等)	設置場所	番号
血液ガス分析装置	ラジオメーター(株)、ABL-800	緊急検査室	1
全身麻酔機	泉工医科工業(株)、MD-755XLV	放射線撮影室	2
移動型X線装置	(株)日立メディコ、シリウス130HP(静画)	診察室	3
X線移動型装置(外科用X線撮影装置)	シーメンス社(動画)	放射線撮影室	4
急速輸血・輸液加温システム	スミスマディカル社	放射線撮影室	5
外科的処置に用いる各種鉗子	穿頭セット、開胸セット、開腹セット	緊急検査室	6

・救命救急センターとして必要な重症熱傷患者用備品等

保有している医療機器	内容(商品名、メーカー、型番等)	設置場所	番号
創処置用被覆材	アクアセル、カルトスタッフ、テルダーミス	緊急検査室	7

・急性期の重篤な心臓病の救急患者の治療等に必要な専用医療機器

保有している医療機器	内容(商品名、メーカー、型番等)	設置場所	番号
除細動器	日本光電工業(株)、TEC-5531	放射線撮影室	8
除細動器	日本光電工業(株)、TEC-5531	手術室	9
電気メス	泉工医科工業(株)、MS-BM1	放射線撮影室	10
PCPS(経皮的心肺補助システム)	テルモ(株)、SP-101	診察室	11
IABP(大動脈内バルーンポンピング)	MAQUET社	診察室	12

・急性期の重篤な脳卒中の救急患者の治療等に必要な専用医療機器

保有している医療機器	内容(商品名、メーカー、型番等)	設置場所	番号
CT	東芝メディカルシステムズ Aquilion64 他	放射線部	
MRI	東芝メディカルシステムズ(株)製 Vantage Titan 3T 他	放射線部	
血管造影装置	東芝メディカルシステムズ(株)製 INFX-8000V 他	放射線部	

・急性期の重篤な小児重症患者の治療等に必要な専用医療機器

保有している医療機器	内容(商品名、メーカー、型番等)	設置場所	番号
気道確保セット	スミスマディカル社、クイックトラック緊急用輪状甲状腺穿刺キット	手術室	13
小児用挿管チューブ	コヴィディエン社、テーパーガード エバック	手術室	14